

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西屋)

事業所番号	0670101971		
法人名	医療法人敬愛会		
事業所名	グループホーム馬見ヶ崎		
所在地	山鹿市検町1丁目17-23		
自己評価作成日	令和7年2月15日	開設年月日	平成17年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常にご入居者様の想いに寄り添い、一人一人の要望や思いに沿って支援するように心がけている。ご利用者様の生きる力を発揮してもらい、主体となってせいかつして頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和7年3月11日	評価結果決定日	令和7年4月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに河川の遊歩道があり職員の付き添いで気軽に散歩できる環境の中、利用者は自宅で生活していた時と同じように食事の用意、配膳、後片付け、掃除を職員と協力して行い、電話を取りつぐなどそれぞれが役割をもって生きがいのある生活をしています。また地域の夏まつりに参加して住民の方々との交流や馴染みの場所へのドライブ、私物の買い物にも出かけて楽しみ事も取り入れながら過ごしています。職員は、法人理念の「皆様の幸せに役立ちたい」「心を高め、魂を高めたい」のもと、利用者、家族、地域の方へ安心と希望を与えられるようサービスの向上を目指し、業務内容などを提案する「こころみ用紙」の活用で皆の意見を求め、心一つにして取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の目立つところに職員、利用者様に見えるように掲げている		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の会合に出席したり、夏祭りに参加させてもらっている。敬老会や芋煮会のお誘いはコロナの状況もありお断りしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様と一緒に夏祭りに参加し地域の方の理解、協力もあり快く受け入れてくれた。地域運営推進会議にて日々の様子や事例を伝えることで少し認知症への理解を得られた		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に地域の方に参加していただき報告している。アドバイスいただいている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在はコロナ感染対策もあり介護派遣相談員の受け入れを行うことができない。事故報告や生活保護等、市役所の担当者と連絡を取り合っている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	対応に悩むときはその都度職員同士で話し合い共有している。基本的に夜間以外玄関の鍵はかけない。玄関にセンサーあり反応あるたびにスタッフで確認している。	重要事項説明書で緊急やむを得ない身体拘束を行った場合の対応策を明記し、「身体拘束等適正化のための指針」で身体拘束ゼロに取り組んでいる。また、日頃から管理者は職員に身体拘束しないケアについて指導し、センサー等の使用も含め日々介護内容について話し合いより良い介護に努めている。	身体拘束等適正化委員会及び虐待防止委員会の開催、研修の取り組みに見直しが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7	(2)	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止できるように随時研修や日々のミーティングの中で話し合うようにしている。</p>	<p>利用者の人権擁護や虐待防止の体制整備について重要事項説明書に明記し、職員は指針に基づいて日々のケアにあたっている。管理者やユニットリーダーはスピーチロックなども虐待にあたることを職員に指導し、見かけた場合はそのままにせず個別に面談するなどして、日頃から職員同士で注意し合える関係づくりができています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>不明な点は関係各所へ確認し活用できるよう支援している</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書に基づき説明し利用者様、ご家族様に不明な点・不安な点があればすぐに対応している。</p>			
10	(3)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見boxを設置している。カンファレンス時や面会時いつでもご意見いただけるようにしている。</p>	<p>運営推進会議には利用者代表が参加してここでの生活がどうか聞いている。家族等からは面会時やカンファレンス(サービス担当者会議)で意見要望を聞きプランに反映させている。家族等より面会制限解除の希望があり、現在は家族と手を握り合うなどのスキンシップができるようになっている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>随時話し合いできるようにし意見を反映できるように取り組んでいる。</p>			
12	(4)	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に2回個人面談を実施し達成目標を掲げ管理者と一緒に共有している。また働きやすいように有給休暇の利用や子ども看護手当として有給とは別に休みが取れる制度がある</p>	<p>職員は年2回自己評価シートの提出や、管理者との2ヶ月に1回、ユニットリーダーとは月1回、面談して要望や悩みなどを聞いてもらい就業環境の改善に繋げている。また、シフト希望や有休取得についてはユニットリーダーに相談し職員同士の協力体制もあり、資格手当等制度で働きやすい環境になっている。</p>		
13	(5)	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月テーマを決め職場内研修を行う。また現場に必要な研修を行い働きながら不明点などを解消できるようにしている</p>	<p>職員の資質向上とケア内容の統一に努め、利用者の重度化対応に合わせ看取りの研修も行っている。また、入職者には新規採用職員研修を実施して法人理念や事業所内の取り組みを伝え、経験ある職員が指導に当たり不安なく仕事ができるようにしている。</p>	<p>研修の記録や受講後の感想なども記録に残しいつでも閲覧できるように期待したい。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウイルスの影響で外部との交換研修や交流ができていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に自宅を訪問し本人や自室の状況から情報を収集している。また施設内の雰囲気をつかってもらうために見学も勧めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前にご家族から情報を収集している。契約する前に施設の見学を促しわからないことは一つ一つ丁寧に答え安心して入居できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の面会やカンファレンスの時にご本人やご家族の意向をお聞きしケアプランに反映している。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることはやってもらい常に感謝の言葉を伝えている	食事の用意は包丁を使った調理から食後の食器洗いなどを一緒に行い自宅にいた頃と変わらない生活を継続している。日々の生活では個別に日用品購入に出かけ、ユニットで一緒に外出するなど利用者の喜びに繋げ、利用者一人ひとりが生き活きと生活できるように努めている。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話があったときには入居者さんの情報を共有している。面会方法も少しずつ緩和されマスクを着用し玄関にて15分の面会ができています		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関先でお互いマスクを着用し15分間であれば面会可能となった。入居者さんがさりげなく言った行きたい場所にドライブに行っている	面会は家族だけでなく希望があれば友人等の面会もできている。家族の付き添いで行きつけの美容院、墓参り、葬儀参列、親族等との交流など関係継続を大切にしながら日々の生活を以前と変わらず過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりを理解した上で席を決めている。利用者が孤立しないようスタッフが間に入り会話の橋渡しを行い良好な関係が築けるように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の時に入居された日から撮影した写真をUSBメモリに保存してご家族に渡している。また何か困ったことがあればいつでも連絡して下さるようお願いしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にこれまでどのような人生を歩んできたのか、何を大切にしてきたのか、そしてこれからどう生きていきたいのかを聞き取り全スタッフで共有している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者さんとの会話の中から生活歴を引き出し記録に残しスタッフ間で共有、ケアに生かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違うことがあれば記録に残しスタッフ同士で話し合い必要に応じて看護師や往診の医師に報告し支持をもらい対応している。			
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ同士で入居者さんの状態を共有したうえで必要な支援を話し合い、より良い生活を送れるように支援している	担当者やユニットリーダーが作成した暫定プランを基に本人、家族等を交えてカンファレンスを開いて、状態や意向を確認しながら介護計画を作成している。プランを基に統一した個別ケアを実践し状態の変化があれば家族等へ連絡し内容の見直しを行っている。		
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	主観的な書き方ではなく客観的に記録できるように心がけている。記録するだけでなく声を掛け合い情報の伝達を行い皆が同じ。想いで動けるようにしている。	日々の利用者の状態、生活の様子等はすべて個別記録に記載し、気になった事は申し送りなどで共有している。利用者の既往歴、服薬情報などを記載した情報シートはユニットごとに1冊にして非常時持ち出しできるようにしている。また、急な状態変化は職員間で共有し状況に応じて管理者やユニットリーダーへ報告して速やかに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居様の様態に合った支援ができるよう安全面、ご本人様のご意向を踏まえて支援を見極め取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとり地域資源を把握できているかわからないが、地域に出向く機会を作ったり自己決定できるばを設けている。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様対応でかかりつけ医にかよわれている方や、訪問診療に切り替えていただき安心安全に過ごしていただけるよう対応している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内にある同法人のデイサービスの看護師と連携を図り適切な処置を行っている。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーを準備し情報提供し、入院中は面会に行き体調の変化の把握につなげ退院後は安心して生活出来るよう看護師・ご家族様との情報収集に努める。	入院する際は個別記録や情報シートを基にした介護サマリーで情報提供している。入院中は医療連携室を通して面会に行き状態把握すると共に、家族と連絡を密にして情報共有を図っている。家族等の意向を確認しながら、退院後の生活が問題なく過ごせるように支援している。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	どのような生活を送りたいかご本人様の要望を聞き、家族様のご意向も含め方向性を見つけていく。主治医の協力のもと研修を行ったり、資料を準備したり必要な支援ができるようにしている。	入居時に重度化した場合に関する指針や看取り介護に関する指針を基に説明して理解を得ている。状態に変化が見られてきた時は、都度、本人・家族等の意向を確認し今後の方針を話し合っている。看取り介護を希望した場合は主治医を交えてカンファレンスを実施し最善の支援で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生、緊急連絡網、その他マニュアル確認しスムーズな対応につなげている。			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練行っており、今後は地域の方も含めた訓練を検討している。	7月と10月、火災時の避難訓練を併設するデイサービスと合同で実施している。10月は当事業所が氾濫の危険箇所であることから消防職員立会いで浸水時の訓練も同日に行い、情報収集や状況確認、避難場所への連絡など手順に沿って安全で迅速な行動ができるように取り組み、招集訓練や備蓄の確保などで有事に備えている。	訓練実施後は、内容や講評、感想、反省点などを毎回記録し、今後活かせるよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや態度に気を付けており一人ひとりに尊敬の気持ちを込めて接している。	認知症を理解し、繰り返し訴える方の話を受け止め要望を引き出し、好きなことやできることに喜びを感じて笑顔が見られるよう支援している。羞恥心やプライバシーを伴う介助の際は、配慮ある声掛けや対応で自尊心や人格を尊重したケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	感染予防のため気軽に外出を行うことは難しくなったが利用者が発した希望を実行できるように心がけている。			
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで動くのではなく入居者さま一人一人の時間に合わせて声掛けを行っている。	起床や就寝時間、食事のスタイルなど、利用者の希望に合わせて柔軟に対応している。職員の付き添いで仲良し同土散歩を楽しんだり、欲しい物の買い物に出かけたり、やりたいことや要望は可能な限り実現できるように個別支援を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たいものを着ていただけるよう利用者を選んで頂いている。自分で用意できない方は選択肢を提示して選んでもらう。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の本や広告を見ていただき入居者と一緒に献立を決めている。	献立も利用者と一緒に考え、下準備から調理、配膳、後片付けなど食事作り全般を一人一役で皆が担い、包丁使いから揚げ物までできる力を発揮して張り合いのある食生活を送っている。昼食はご飯、パン、麺から各々好きなものを選び、誕生会では主役の好物をテイクアウトするなどして楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の方とともに献立を考えながら栄養バランスや量、色彩に配慮し旬の食材を活用して提供している。一人ひとりの水分量を把握しそれぞれに合わせた形で提供している。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い各々の出来ることに合わせた口腔ケアをしている。	食事の後は自室の洗面台で口腔ケアをして、義歯のある方など必要な方には職員が介助し、就寝前の歯磨きは特に入念に確認して清潔を保持している。訪問歯科診療を受けている方も多く、助言をもらいながら口腔衛生管理に努めている。	
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎食後やあらかじめ決めた時間で声掛けを行い促すようにしている	トイレでの排泄を基本に定時誘導や声掛けをして排泄状況を記録し、時間や排泄用品の見直しに繋げている。失敗があってもさりげない対応を心掛け、本人の不安や負担の軽減に努めながら自立にむけて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動の声掛けを行っている。水分摂取ができるよう声掛けを行い、飲みたがらない方には好みの飲み物を準備し水分摂取できるよう努めている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	各々の希望に添えるよう入浴に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で過ごしていた生活習慣が続けられるように支援している。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用を確認し、服用後の変化の観察に努めている。服薬マニュアルに沿って名前、日付、薬の数を声に出して確認し、誤薬を防いでいる。	配達された薬については薬剤師より効能や副作用の説明があり、内容の理解に努めている。薬の変更時には個別記録や申し送り職員間の共有を図り状態を注視すると共に、変化があった場合は主治医に指示を仰ぎ、家族等にも報告して迅速に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方が出来ること、やりたいことを無理のない範囲で実践することができていたが最近では出来ていないため時間を見つけて取り組めるように努める。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が少なかったり天候で外出ができないことがある。少しでも外に行ける日があれば近くを散歩するなどの支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き本人に購入してもらうことが出来るが行けないときには職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が来たときは基本入居者の方に電話に出てもらおう。ご家族から電話があったときは本人に出てもらいゆっくり話してもらおう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の風景を話題にし季節感を感じてもらっている。皆が好きな音楽を流し和やかに過ごせるようにしている。自分の席がわからない方には名前を貼ったり目印になるようなものを置いている。	リビングや廊下の窓からは四季折々に川原を散歩する人達や園児の姿が見られ、日常の暮らしを五感で感じている。毎日食事作りや掃除、洗濯など家事全般を皆で行い、余暇は自由に好きなことをして充実した一日を送っている。適時の換気や消毒液での拭き掃除など感染対策にも努め、居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で会話できるよう橋渡しをしている。一人で過ごしたい方は無理に誘わず様子を見て共有空間に来てもらっている。それぞれ好きな話題を振ったり余暇を促して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やインテリア、家族の写真を居室に置いている。掃除やシーツ交換を本人と行い快適に過ごしていただけるようにしている。	居室にはベッド、ダンス、押入れ、洗面台があり、他は馴染みの物を自由に持参して自宅に近い生活空間を大事にしている。転倒リスクのある方にはセンサー使用や家具の配置を工夫してつかまりやすくするなど、状態に合わせた環境整備を心掛け安全に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名前を本人に書いていただいている。トイレや居室の場所がわかりやすいように張り紙をしている	/	/